



組合員参加で卵パック・紙パックの回収率は100%を超えています。



いわて生協が参加する大仙バイオマス発電施設を組合員が見学。

第6章

環境活動

地球温暖化防止と「原発に依存しない事業と暮らし」をめざし、取り組みをすすめています。



いわて生協 環境方針

環境理念

いわて生協は、2011年の東日本大震災と福島第一原子力発電所の重大事故を受け、「原発に依存しない事業と暮らし」をめざし、取り組みをすすめてきました。その結果、いわて生協の事業で使用する電力の100%以上を再生可能エネルギーで賄い、CO₂排出量も目標を超えて削減することができました。さらに、再生可能エネルギー比率の高い「コープのでんき」の

組合員への供給も開始し、利用世帯を広げています。持続可能な地球を子どもたちに残すために、引き続き、人類共通の課題である「地球温暖化防止」のための取り組みを、組合員と一しょにすすめていきます。また、プラスチック問題や食品ロス問題などあらたな課題にも取り組みます。

環境方針

1. いわて生協は従来の活動の枠や発想にとらわれることなく、全常勤者が知恵を込め、以下の活動に取り組めます。
 - (1) いわて生協の事業における環境負荷を減らすために、マネジメントラインを通じて、全常勤者が、日常の仕事としてPDCAサイクルをまわし、継続的な改善を積み重ねていきます。
 - (2) CO₂排出量は、「2013年を基準に2030年までに40%削減する」目標を掲げています。再生可能エネルギーの導入推進と、施設・設備の省エネ型への更新、常勤者の節電の取り組みにより、いわて生協で使用する電力の100%以上を再生可能エネルギーによる発電でまかなう状況を維持します。
 - (3) 資源の節約とリサイクルの活動を、組合員と一しょに、いっそう推進します。事業者責任として、容器包装の100%回収をめざし、年度のリサイクルの目標を設定して取り組みます。レジ袋の節約では節約率100%を目標に、更に使用の削減に取り組みます。また、プラスチックを削減した商品の普及にも、組合員と一しょに取り組めます。
 - (4) 産直商品、アイコープ商品の開発や利用普及、地産地消の活動を、組合員と一しょにいっそう推進します。このことで、輸送エネルギーの削減による

- CO₂排出量の削減をすすめるとともに、県内農林漁業の復興・振興に寄与します。組合員には、輸送エネルギー削減によるCO₂削減効果についてわかりやすいお知らせを行います。
- (5) 食品ロス問題は、食品廃棄物の削減、リサイクル率の向上の目標をかかげ、取り組みを進めます。「コープフードバンク」を通じた社会貢献など、事業者としてより積極的な役割を果たします。
 - (6) 岩手の森林を保全・育成し環境意識を高める取り組みとして、「コープの森づくり」を継続します。
2. 環境に関する法令を守り、事業によって環境を汚染しないよう、その予防に努めます。
 3. 上記の課題に、全常勤者が主体的に取り組めるように、環境教育を実施します。
 4. この環境方針と環境活動の取り組みの結果を定期的に公表し、社会的責任を果たすとともに、環境問題について社会全体の取り組みがさらに進むことに寄与します。

制定日 2011年5月23日
 改定日 2021年3月29日
 いわて生活協同組合
 理事長 飯塚明彦

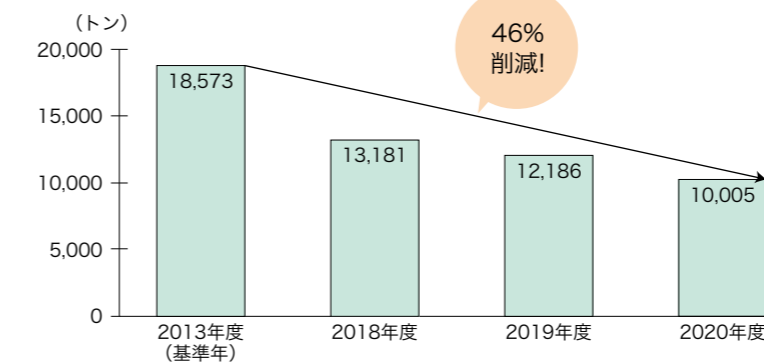
事業におけるCO₂(二酸化炭素)排出量削減の取り組み

2020年度CO₂排出量 2013年度比46%削減

2020年度、いわて生協の事業におけるCO₂排出量は1万5トン、前年度から2,181トン(約18%)削減することができました。2020年度のCO₂排出量削減目標「2013年度比40%削減」に対しても、「46%削減」と達成することができました。

事業活動で使用するエネルギーの5割を占める「電気」について、再生可能エネルギー比率の高い電気を購入するなど、電力の切り替えをすすめてきました。これによりCO₂排出係数が低くなりました。また、節電などエネルギー使用量を減らすことで、CO₂排出量の削減につながっています。

事業におけるCO₂排出量



秋田羽川風力発電「風みらい1号」

「CO₂排出ゼロ」電力を6事業所に

2020年度、5店舗と1共同購入センターでCO₂排出ゼロの電力を導入しました。いずれも岩手県内でつくられた再生可能エネルギーによる電力を使用しています。

岩手八幡平地熱発電所	コープ高松、ベルフ仙北、ベルフ山岸、ベルフ牧野林
花巻バイオマス発電	コープ花巻あうる
野田村バイオマス発電	久慈センター

事業所での節電、施設設備省エネ化の取り組み

店舗は、リニューアルで冷蔵・冷凍設備の入れ替えをすすめました。また夜間の冷ケース自動オフ設定や、タイマーの設置が節電につながりました。さらに運用管理も定着し、店舗の電気使用量は計画・前年内に収めることができました。

環境マネジメントシステム (EMS)

いわて生協は2000年に県内流通分野で初めて環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格ISO14001の第3者認証を取得し、環境活動に取り組んできました。2010年下期からは独自のEMSに移行し運営管理しています。EMSの仕組みを生かしながら、省エネ設備や創電など、より戦略的なテーマに取り組んでいくことがねらいです。

内部環境監査

2020年度は7月度に52事業所で実施。是正は前年と同じ1件でした。是正事項はすみやかに改善されました。

環境情報

環境活動に関するお申し出は、レジ袋の節約やリサイクルを中心に250件が寄せられました。



いわて生協が参加する野田木質バイオマス発電。



いわて生協の風力発電「風みらい1号」。

原子力発電に依存しない事業とくらしをめざす取り組み

事業所の電気使用量132%相当を再生可能エネルギーで確保

東日本大震災による原子力発電の重大事故を受けて、「原発に依存しない事業とくらし」をめざし、再生可能エネルギーによる創電を積極的にすすめています。

2020年度事業所の電気使用量は、2,652万kWh(前年比98.6%)。これに対し、再生可能エネルギーで3,452万kWh(前年比111%)を発電し、電気使用量の132%相当を再生可能エネルギーで確保することができました。さらに、再生可能エネルギー発電比率の高い電気を組合員に供給する電気小売事業「コープのでんきCOCOENE」は、3年目で6,659件に利用が広がりました。

再生可能エネルギーによる創電を拡大

コープ東北羽川風力発電

2020年度発電量 486万kWh(前年比73%)

みやぎ生協・コープあきたと共同で風力発電3基を秋田県に建設。うち1基がいわて生協の「風みらい1号」。2016年10月稼働。発電出力は2.5MW。風車が稼働できない期間があり、発電量が前年を下回りました。

野田木質バイオマス発電

2020年度発電量(いわて生協分) 1,089万kWh(前年比100%)

日本生協連、コープ東北サンネット事業連合などとともに参加。2016年8月本格稼働。発電出力は14MW。

花巻木質バイオマス発電

2020年度発電量(いわて生協分) 816万kWh(前年比100%)

2017年2月稼働。いわて生協は同年5月より参加。発電出力は6.25MW。

大仙バイオマス発電

2020年度発電量(いわて生協分) 371万kWh(前年比100%)

2019年2月稼働。いわて生協は同年4月より参加。発電出力は7.05MW。

岩手八幡平地熱発電

2020年度発電量(いわて生協分) 500万kWh

2019年1月稼働。いわて生協は2020年4月より電力を調達。

姫神ウィンドパーク

2020年度発電量(いわて生協分) 789万kWh

2019年4月稼働。いわて生協は2020年4月より電力を調達。

太陽光発電

2020年度発電量 89万kWh(前年比93%)

23の事業所(882kW)で発電しました。2020年度は介護・福祉センター、盛岡北センター、プロセスセンター(PC)の3事業所に新たに設置しました。

太陽光発電設置事業所(2020年度稼働)

事業所名	発電出力(kW)	事業所名	発電出力(kW)
セリオホールみたけ	25	宮古センター	25
釜石センター	20	コープ花巻あうる	98
セリオホールみやこ	10	セリオホール仙北	43
ベルフ牧野林	49	花北センター	58
久慈センター	20	セリオホール岩泉	20
けせんセンター	20	セリオホール緑が丘	29
ベルフ山岸	30	セリオホール水沢	22
県南センター	44	セリオホール矢巾	22
セリオホール牧野林	16	介護・福祉センター	10
ベルフ八幡平	99	盛岡北センター	20
コープ関コルザ	80	プロセスセンター	48
盛岡南センター	74	合計	882

廃棄物の削減、リサイクルの取り組み

組合員とすすめるリサイクル活動 回収量は4,400トンに

トレイ、紙パック、卵パックの全量回収をめざし取り組んでいます。2020年度も回収ルールを発信を継続し、リサイクル参加を呼びかけました。また、店舗惣菜商品のトレイを、リサイクル可能トレイに切り替えをすすめました。回収率はトレイ40.9%、紙パック134.8%、卵パック158.1%といずれも前年より向上しました。総回収量は4,400トン(前年比98%)になりました。

回収量は増えているものの、回収率が40%にとどまるトレイの回収を広げること、リサイクルできないものの割合が3割にのぼる卵パックの回収ルール周知が課題です。

5店舗に設置している古紙回収機は、新聞やチラシ、雑誌など605トン(前年比90%)を回収しました。

古紙回収機設置店舗

- ・ベルフ仙北(盛岡市)
- ・コープ関コルザ
- ・コープ花巻あうる
- ・マリンコープドラ(宮古市)
- ・コープアテルイ(奥州市)

組合員のリサイクル活動(店舗・共同購入)

上段：回収量(前年比) 下段：枚数換算値

トレイ(発泡)	47トン(110%) 940万枚		▶ トレイに再生
トレイ(透明)	24.8トン(104%)		▶ 透明トレイ・プラスチック製品に再生
ペットボトル	154.7トン(106%) 257万本		▶ プラスチック製品に再生
卵パック	29.8トン(106%) 75万枚		▶ 卵パック原料に再生
紙パック	80.6トン(106%) 241万枚		▶ アイコープわたしたちのリサイクルトレットロールを含む紙製品に再生
共同購入チラシ	3,203トン(98%)		▶ アイコープわたしたちのリサイクルトレットロールを含む紙製品に再生
共同購入内袋 チラシ包装袋	18.1トン(101%)		▶ プラスチック原料に再生
古紙	605トン(90%)		▶ 紙製品に再生
アルミ缶 スチール缶	108トン(106%)		▶ アルミ・鉄製品に再生
廃食用油	23.6トン(91%)		▶ 飼料原料として再利用
ダンボール	104.7トン(173%)		▶ ダンボールに再生

※業者に払い渡して再資源化した数量です。

レジ袋節約率は83%に向上

2020年7月レジ袋有料化がスタート。店舗では主要なレジ袋をバイオマス素材比率50%に切り替え、レジ袋の種類を減らすことでプラスチック使用量の削減をすすめました。また、マイバッグやマイバスケット普及(13,650点)にも取り組みました。組合員活動でも、「わいわいコープ」などでレジ袋の使用を減らそうと呼びかけました。

その結果、2020年度末の節約率は83%となりました。節約率100%をめざして引き続き取り組みます。



生ごみリサイクル率70%

店舗の生ゴミリサイクルは352トン(前年比92%)、リサイクル率は70%でした。

※食品リサイクル率は、法律で55%以上が目標です。

生ゴミリサイクル状況

店舗	用途	重量(前年比)
盛岡・滝沢店舗	堆肥原料	82トン(85%)
コープ花巻あうる	堆肥原料	11トン(79%)
コープアテルイ(奥州市)	堆肥原料	29トン(88%)
コープ関コルザ	動物の餌	3.9トン(66%)
全店(魚アラ、惣菜油)	飼料・肥料原料	197トン(85%)

いわて生協のリサイクルの流れ





毎年組合員が参加して取り組む森づくりの活動。



マイバスケットの利用を広げました。

岩手県「エコショップいわて認定店 優良事例表彰」 いわて生協と店舗が受賞

岩手県「エコショップ」制度でこの間のリサイクルの取り組みなどが評価され、いわて生協として特別表彰を受けたほか、3店舗が表彰されました。

2020年度エコショップいわて優良事例表彰

特別表彰 いわて生協（本部／滝沢市）
総合表彰 ベルフ牧野林（滝沢市）、コープ花巻あうる（花巻市）
部門別表彰 廃棄物発生抑制の部 ベルフ牧野林（滝沢市）
部門別表彰 店舗資源回収の部 ベルフ北上（北上市）

組合員活動の取り組み

2か所の「コープの森づくり」に 88人が参加

岩手の豊かな森林を残していこうと、組合員参加で「コープの森づくり」に取り組んでいます。2020年度はコロナ禍でしたが、参加人数を限定して実施しました。

「コープの森 in くずまき」（2010年開始）は、植樹活動に組合員・常勤者など34人が参加し、クリの苗木300本を植樹しました。10年間での植樹は、委託分も含め2万本となりました。

「コープの森 in まえさわ生母～国の天然記念物イロハモミジの森づくり」（2014年開始）の活動は、下草刈の活動に組合員・常勤者25人が参加し、イロハモミジの苗木周辺の下草を刈りました。

「コープの森づくり基金」 収入は197万円に

2012年に「コープの森づくり基金」を設立し、組合員のリサイクルで回収した紙パックの益金と共同購入チラシ益金の一部、「苗木一本募金」、お取引先協賛企画による募金を積み立てています。

2020年度の収入は197万円（前年比71%）で、組合員による「コープの森募金」は17万4千円（前年比104%）。みちのくコカ・コーラ様の協賛で、「対象飲料1本利用につき1円がコープの森募金」になる企画を継続しました。また、新たにキリンビバレッジ様の協賛で「商品購入金額の一部がコープの森募金」になるキャンペーンを店舗で実施しました。

「コープの森づくり」を支えてくださる企業を募集しています。お問い合わせは、環境事業推進室（TEL 019-687-1321（代））まで。

2020年度コープの森づくり基金収支

収入	苗木一本募金	17万4,000円
	牛乳パック売却代金	21万5,298円
	共同購入チラシ売却代金(5%)	139万9,200円
	協賛金など	18万4,605円
	計	197万3,101円
支出	くずまきの森費用	15万9,409円
	まえさわ生母の森費用	66万1,226円
	広報費用	102万1,636円
	計	184万2,271円
収支	コープの森づくり基金へ	13万 832円

※コープの森づくり基金の2020年度残高は504万9,237円となりました。

環境に配慮した商品の利用普及

産直品・アイコープ商品 輸送エネルギー削減効果 CO₂ 19万9千トン相当

産直品やアイコープ商品の利用普及は、地産地消を推進し、県内農林水産業の復興・振興に寄与します。また、生産・流通・消費がすべて岩手県内で完結するため、輸送エネルギーの削減につながります。

2020年度は、いわて生協30周年を機に生協商品のよさを知らせようと取り組み、輸送エネルギー削減効果はCO₂ 19万9千トン相当となりました。

リサイクルの輪が繋がるアイコープ商品

「毎週届く共同購入チラシがもったいない」。そんな組合員の声にこたえ、1996年に盛岡で、翌年には全県で共同購入チラシの回収をスタートしました。さらに1998年には、回収したチラシを原料の一部に使った商品「アイコープわたしたちのリサイクルトイレットロール」が誕生しました。



組合員から回収した共同購入チラシを原料の一部に使用。

組合員が使った共同購入チラシを回収し、トイレットペーパーにリサイクルし、それを組合員が購入して利用する。回収に出して終わりではなく、製品として利用することでリサイクルの輪が繋がる画期的な商品です。

製造は、一関市の上山製紙(株)。県内の工場だから原料や商品の輸送距離が短く、より環境にやさしい商品です。



葬祭事業セリオ エコ棺のご利用は576件(前年比102%)に

葬祭事業では、葬儀の棺に環境負荷の小さい「エコ棺」をおすすめしています。「エコ棺」は、管理された森林から採取した木材パルプを使用した、特殊三層構造の紙製の棺です。木材の使用は従来の棺の3分の2、火葬時の燃焼による排ガス汚染は3分の1に低減されます。また、供給の一部を東京都青梅市御岳の山「グリーンアークの森」の植樹活動に寄付しています。2020年度は施行件数の42%にあたる576件で使用されました。

プラスチックによる環境負荷を減らす コープ商品の取り組み

世界的な問題となっているプラスチックごみ。全国の生協でつくるコープ商品は、プラスチック容器重量の削減や再生プラスチック・植物由来プラスチックへの切り替えなど、できることから取り組みを始めています。2020年度、いわて生協では19アイテム26万点が利用され、前年比135%に伸長しました。

コープ商品 プラスチック使用量削減の取り組み

<p>リデュース 1. Reduce 使用量を減らす</p> <p>包装を省く、小さくする、薄くするなど、使用量を減らします。</p>	<p>リユース 2. Reuse 繰り返し使う</p> <p>洗剤やシャンプーなどの詰め替え用を充実します。</p>
<p>リサイクル 3. Recycle 再び資源に</p> <p>回収プラスチックを原料にした包材の利用を広げます。</p>	<p>バイオマス 4. Biomass 植物由来の素材使用</p> <p>植物からできたプラスチックの利用をすすめます。</p>

取り組みの一例 ラベルレスペットボトル飲料の開発

2019年6月から、ペットボトルにラベルフィルムをつけない水を発売し、1ケースあたりのプラスチック使用量を5.16g削減しました。賞味期限はボトルキャップに記載し、商品名やリサイクルマークなどは小さなシールを貼って表示しています。その他の情報は外箱のダンボールに記載することで「ラベルレス」が実現しました。

現在、コープのラベルレスペットボトル飲料はお茶類などにも広がり、共同購入（班・個人宅配）で取り扱っています。



環境活動のあゆみ

1990年 いわて生協誕生	・牛乳パックの回収リサイクルを開始。 ・買い物袋節約スタンプ制開始。	2009年	・本部構内にBDF精製施設を設置。 ・透明トレイ・ふたの回収リサイクルを開始。 ・盛岡エリア店舗の生ごみ(食品残さ)を小岩井農場内でガス発電・液肥へのリサイクルを開始。
1991年	・使用済みOCR用紙のリサイクルを開始。 ・食品トレイの回収開始。	2010年	・「コープの森づくり」が葛巻町でスタート。 ・BDF使用が本格化し共同購入トラック24台で走行。 ・県「エコショップ」制度で特別表彰。 ・ISO14001を終了。独自EMS運用へ。
1992年	・アルミ缶の回収を青山店(現ベルフ青山)で開始。	2011年	・東日本大震災と原発事故を受けて「原発に依存しない事業と暮らし」をめざす方針を決定、取り組み開始。 ・家庭の使用済み揚げ油回収スタート。 ・「低炭素杯2012」で、特別賞受賞。 ・レジ袋大幅削減に向けた提言書を、岩手県などへ提出。
1993年	・朝配達牛乳で、紙パックをリターナブルビン容器(720ml)へ切り替え。 ・レシート用紙を再生紙に。	2012年	・「コープの森づくり基金」設立。 ・「古紙回収システム」ベルフ仙北でスタート。 ・県「エコショップ」制度で、コープ高松が総合表彰、いわて生協全店も特別表彰を受賞。
1994年	・包装ラップを非塩ビラップに切り替え。 ・店舗の飲料自動販売機の台数を削減(42台から20台へ)。 ・ギフトの簡易包装紙を開発し、使用開始。	2013年	・秋田羽川風力発電共同事業に基本合意。 ・「食品産業もったいない大賞」で審査委員長賞受賞。 ・県「エコショップ」制度でベルフまつそのが総合表彰。 ・電気自動車4台を盛岡南センターに導入。 ・「コープの森づくり」奥州市でスタート。
1995年	・ペットボトルの回収リサイクルを開始。 ・共同購入トラックにLPG(低NOx)を導入開始。	2014年	・「古紙回収システム」をコープアテルイ・コープ関コルザ・マリンコープドラに導入。 ・「できることからECOアクション賞」受賞。 ・県「エコショップ」制度で店舗事業が総合表彰、ベルフ牧野林が部門別表彰。 ・野田村の木質バイオマス発電事業へ出資・参加。
1996年	・共同購入盛岡3支部で商品案内チラシ回収リサイクルを開始(翌年全支部で開始)。 ・注文のないOCR注文用紙の回収リサイクルを開始。	2015年	・電気自動車3台を花北センターに導入。計7台に。 ・県「エコショップ」制度で、いわて生協が総合表彰。
1997年	・盛岡市「ごみ減量・リサイクル協力店」に認定。	2016年	・日本生協連の新電力会社「(株)地球クラブ」からの電気購入スタート。 ・野田木質バイオマス発電、コープ東北羽川風力発電が稼働。
1998年	・回収したペットボトル・卵パックを卵パック原料として再利用。 ・回収した商品案内チラシを原料に、アイコープトレットペーパーを商品開発。	2017年	・花巻バイオマス発電事業へ出資・参加。 ・県「エコショップ」制度で、コープ花巻あうるが総合表彰。 ・紙パック、トレイ、卵パックの全量回収をめざす取り組みをスタート。
1999年	・アイコープ低温殺菌牛乳(200ml)をリターナブルビン容器に切り替え。 ・ペットボトル・卵パック圧縮減容の作業開始。	2018年	・コープのでんき「ココエネ」開始。 ・県「エコショップ」制度で、いわて生協と3店舗が表彰。
2000年	・県内流通業で初めてISO14001の外部認証取得。 ・LPG車両が50台を超え半数以上の導入計画達成。 ・マイバッグ、マイバスケットの本格的普及活動を開始。	2019年	・大仙バイオマス発電事業へ出資・参加。 ・「岩手県環境活動表彰」受賞。 ・県「エコショップ」制度で6店舗が表彰。
2001年	・印刷物に大豆インキを採用。 ・遺伝子組換え原料・飼料の排除の取り組み本格化。	2020年	・松尾八幡平地熱発電所と姫神ウィンドパークから電力調達を開始。 ・県「エコショップ」制度でいわて生協と3店舗が表彰。
2002年	・買い物袋節約スタンプからカードポイント制に変更。 ・共同購入の内袋を回収し、内部使用のゴミ袋にリサイクル開始。		
2003年	・買い物袋節約率が30%を超える。 ・コープアテルイで生ごみ堆肥化リサイクルを開始。		
2004年	・印刷物・帳票類の再生紙への切り替えが終了。		
2005年	・岩手県「エコショップ」制度第1号認定を受ける(全店)。 ・「森林(もり)を守る募金」開始。以後、この募金を活用し4年間で県内環境団体へ150万円贈呈。		
2006年	・初の太陽光発電をセリオホールみたけに設置。 ・共同購入トラックでBDF使用開始(6台)。		
2007年	・買い物袋節約率45%に。50%をめざす新目標を決定。 ・葬祭事業で環境負荷が少ない棺「エコ棺」を導入。		
2008年	・発泡スチロールの減容・リサイクル施設完成。 ・共同購入トラックで燃費改善の取り組み開始。 ・買い物袋節約率が51%となり、50%の目標達成。		

いわて生協の概要



2020年度の事業・決算概要

2020年度は、「2020年ビジョン」の最終年度、また「いわて生協誕生30周年・地域生協誕生50周年」の年として取り組みをすすめました。3店舗のリニューアル、子育て層を応援する「はじめてばこ」「はじめてCLUB」の拡大など、組合員の暮らしを支える事業を着実にすすめました。組合員は26万7千人を超え、「2020年ビジョン」でめざしてきた「県内世帯の過半数が組合員」を達成。共同購入の利用増と店舗の経営改善により、経常剰余金は11億円と、予算を大きく上回って確保することができました。

主な事業

店舗事業(16店舗)、共同購入事業(9共同購入センター)、共済事業(1共済センター)、葬祭事業(11館)、福祉事業(2事業所)、エネルギー事業
関連会社/(株)コープ東北保険センターいわて支店

いわて生協のプロフィール

※すべて2020年度末(2021年3月20日)の数字です。

■組合員数	■世帯加入率
26万9,134人	50.7%
■出資金	■供給高
99億2,674万円	446億2,515万円
■共同購入利用人数	■常勤者(職員)数
7万7,753人	2,191人

数字で見るあゆみ

	■組合員数	■出資金	■供給高
1990年度(誕生時)	8万8,166人	13.1億円	184.1億円
2000年度	13万7,567人	36.4億円	372.9億円
2010年度	19万9,279人	69.4億円	352.8億円
2015年度	23万3,208人	82.5億円	386.2億円
2020年度	26万9,134人	99.3億円	446.3億円

2030年ビジョン
~私たちのありたい姿~
「ともにつくる
くらしと未来」

- 1 私たちは、生涯をととして組合員の暮らしに役立つ生協をめざし、特に若い世代や子育て層の暮らしにいつそう役立つ事業をすすめ、加入・利用・活動参加を広げます。
- 2 私たちは、だれもが安心して暮らせる社会と、人と人がつながる地域づくりをめざし、組合員参画による運営とくらしの願いにそった活動をすすめます。
- 3 私たちは、地球環境・食・平和について学び、行動する人を広げ、持続可能な世界の実現をめざします。

◆店舗



- ・ベルフ八幡平
- ・ベルフ仙北
- ・コープ花巻あうる
- ・ベルフ牧野林
- ・マリンコープドラ
- ・ベルフ北上
- ・コープ高松
- ・コープ西ヶ丘
- ・コープアテルイ
- ・ベルフまつその
- ・ベルフ西町
- ・コープ関コルザ
- ・ベルフ青山
- ・ベルフ魚菜市場
- ・ベルフ山岸
- ・コープチェリオ

■共同購入センター



- ・久慈センター
- ・盛岡南センター
- ・宮古センター
- ・にのへセンター
- ・花北センター
- ・金石センター
- ・盛岡北センター
- ・県南センター
- ・けせんセンター

●葬祭会館



- ・セリオホール牧野林
- ・セリオホールみやこ
- ・セリオホールみたけ
- ・セリオホール磯鶏
- ・セリオホール緑が丘
- ・セリオホール金石
- ・セリオホール中野
- ・セリオホール岩泉
- ・セリオホール仙北
- ・セリオホール水沢
- ・セリオホール矢巾



いわて生協は2030年
ビジョンの実現を通して
SDGs達成に貢献します